

あきる野市議会 御中
市議会議長 御殿
市議会議員 各位

秋多都市計画事業武蔵引田駅北口土地区画整理事業に対する陳情書

次の事項について陳情いたします。

記

- 1 秋多都市計画事業武蔵引田駅北口土地区画整理事業をいったん凍結し、地権者の納得と合意が得られるまちづくりへの変更を求めます。

武蔵引田駅北口の区画整理事業は、すでに東京都により事業認可がなされ、市によって事業計画が決定されております。しかし、本事業について計画を見直してほしいと思っている住民や、市の財政事情や環境保全にかんがみ、区画整理に疑問を感じている市民は少なくありません。

この区画整理事業については、平成27年10月の市長選挙で、大きな争点となりました。この事業に凍結・反対を唱えた村木氏、松本氏の票は、合計15,784票で55.7%、推進を唱えた澤井氏の票は12,169票で42.9%（立沢氏393票、1.4%）でした。市民の総意としては、凍結・反対が多数の結果でした。したがって、この冷厳な事実に基づき、新市長がこの問題を見直し、区画整理事業を凍結し、住民の「納得と合意」に基づく「まちづくり」を行うことこそが、市民、住民の総意です。

また、あきる野市の借金は、平成27年度末残高見込み額で645億119万円にもなり、その上、今後40年間で公共施設の維持管理のために1540億円の支出が見込まれます。東京都で最悪の財政状況の中、さらに借金を積み重ね、区画整理事業をこのまま継続して推進することによって、近い将来遺恨を残すことは必定です。

そもそもこれまで行われた区画整理事業に関する住民説明会や、配布された資料などでは、この事業によって、住民にどのような事態がもたらされるのか

について、具体的な説明がなく、十分な理解がなされていませんでした。

そのため、区画整理事業について調べたところ、区画整理は、住民にとっては「災難（人災）」であるとの確信に至りました。なぜなら、今現在居住している住民の宅地や農地を無視し、何もない更地とみなして、まちづくりをしていく手法だからです。市は、都市計画の縦覧や説明会を行ったことで、地権者の合意が得られたとしていますが、地権者の意向調査は、7年前のアンケートのみで、住民は区画整理を頼んだ覚えがありません。

住民の願いは、現在の道路を少し広くして下水道を引き、雨が降ると水たまりになる武蔵引田駅前を歩きやすくして、「もっと住みよくしてほしい」、というものでした。区画整理法によるまちづくりには、宅地や農地を所有している方々に重くのしかかる減歩や、過少住宅の住民には、はっきり金額のわからない清算金が待っています。換地の際には、曳家工法の最低限の補償だけです。多くの方が借金をして新築をしなくてはならず、現況の建ぺい率の家は建てることができません。残るのは、借金だけです。

以上により、秋多都市計画事業武蔵引田駅北口土地区画整理事業をいったん凍結し、住民の「納得と合意」に基づく「まちづくり」を行っていただきたく、陳情いたします。

平成28年 5月 27日

武蔵引田駅北口区画整理事業を考える会

事務局

荒金 眞佐子

